

新銀行の発足にあたって

平成13年4月2日、三井住友銀行は新銀行として営業を開始いたしました。21世紀の幕開けという記念すべき年に誕生する新銀行は、お客さま、投資家の皆さまをはじめ各方面より大きな期待をいただいております。また、我が国経済社会における責任も、これまでより遥かに重いものがあります。こうした期待に応え責任を果たすことにより、「最高の信頼」を得ていきたいと思っております。

合併により、各種デリバリーチャネル、経営資源としての人材、各分野のグループ戦力など、重要な経営インフラにおいて邦銀トップ水準の基盤が築かれました。この経営基盤を、長い歴史のなかで築かれた『三井』・『住友』という信頼感のあるブランドの結合である『三井住友』ブランドの下で、いかに具体的成果に結びつけるか、これからが正念場であります。

経営環境の認識

国内景気は企業部門を中心に調整局面入りが明確化し、資金需要は低迷が続いています。一部企業では財務内容悪化の懸念が生じているなど、現在、邦銀を取り巻く環境は大変厳しくなっています。しかしながら、一方で、リストラクチャリングを自ら推進、または新しい時代に相応しいビジネスモデルを構築することで、経営体力を強化し、具体的成果を示している企業が多数存在することも事実であります。本格化しつつある産業構造改革を、事業再編という新たなビジネスチャンスとして前向きに捉えていくことが、新たな成長のために必須であると考えております。

当行の経営課題

かかる認識の下、当行は、さらなる成長の実現のために、『収益基盤の強化』『バランスシート・マネジメント』の2点を最大の経営課題と位置付け、真正面から取り組んでいきます。その遂行は容易ではありませんが、大胆な発想と堅固な実行力により、必要に応じてパラダイムシフトを果たしながら、着実に推進していく所存です。

まず、『収益基盤の強化』について。当行は、合併によって拡充した経営基盤を十分に活用すべく、個人のお客さま一人ひとりに最適のサービスと最高の利便性を提供する、法人のお客さまごとの経営・財務上のニーズに対し、ソリューションとしてさまざまな金融サービスを提示する、といったお客さまの立場からのアプローチを徹底することで収益力を強化していきます。特に、バランスシートに依存しない金融サービスの拡充に注力し、フィービジネスを新たな収益の核として確立していきます。

一方、経費については、引き続き、徹底した削減に努めます。合併当初はシステム統合等のため一時的に経費が増加しますが、合併効果の前倒しで真に効率的な業務体制を早期に確立します。

加えて、ビジネスプロセスを抜本的に見直すことで経費構造の改革を図り、合併効果としての削減幅を大幅に増加させていく計画です。

また、連結ベースでの業務運営をさらに重視し、グループの収益力を強化いたします。投資銀行業務やカード業務等、戦略性が高く、統合効果を早期に実現しうる分野では有力グループ各社を合併と同時期に統合、グループ経営の優位性を一層強化いたしました。統合した各社には、拡大されたビジネス基盤で高い専門性を発揮することで、連結利益へのさらなる貢献が期待されます。



頭取 西川 善文

次に、『バランスシート・マネジメント』について。当行は、第一に「不良債権残高の削減」に向け、従来に増して対応を強化、喫緊の課題として全力で取り組みます。政府の緊急経済対策の重要課題の一つである不良債権問題の動きを十分に踏まえ、個別案件ごとに粘り強く対応策の具体化を図っていくことで、不良債権の最終処理を推進します。同時に、各企業とより密接な話し合いを持ちながら、早い段階での問題解決を探り、新たな不良債権の発生を防止してまいります。

第二に、時価会計導入を踏まえて、「株価変動リスクの削減」を図ります。株価変動リスクを圧縮することで株価動向の経営への影響を低減させ、より健全な銀行経営を目指します。

おわりに

私は、早期に、当行を国際金融市場の一流プレーヤーたりうる実力を有する銀行とすべく、全力を尽くしてまいります。当行は、合併直後から、重複を排し一本化した体制の下、役職員全員が明確な目標に向けて邁進しています。今後とも、出身行に拘らない実力主義、適材適所を一層徹底するとともに、スピード感と実行力を持って改革を推進することで、合併メリットの最大化、競争上の優位性確立を図ってまいります。

当行に課せられた大きな責任を果たし、『三井住友』を最高に信頼されるブランドとして確立すべく、弛まぬ努力を重ねていく所存です。

皆さまからの、なお一層のご指導、ご愛顧を引き続き賜りますよう、お願い申し上げます。